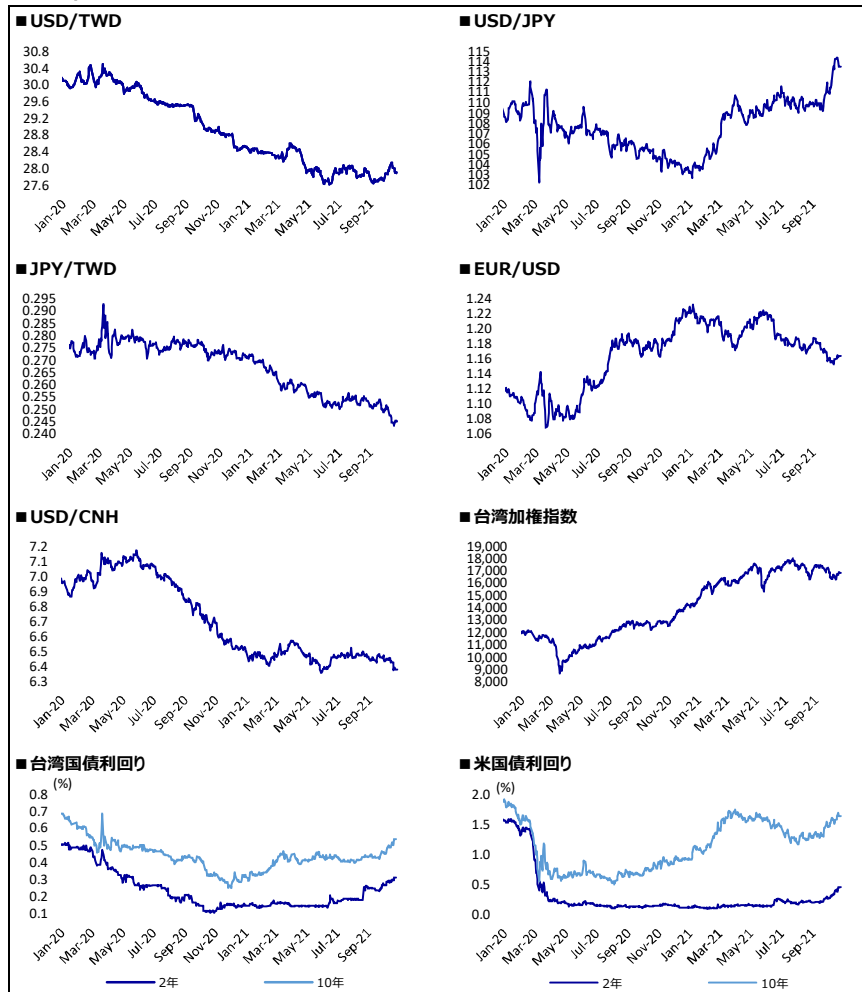


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初10/18は28.010でオープン後、輸出企業のドル売りが入り28を割ったものの、発表された中国の9月の経済指標が全般的に不況な結果であったことから28台に戻す展開に。10/19はドル高の地合いが一旦落ち着いたことや、外国人投資家が台湾株を買い越したこともあり、じりじりと下落し、27.91付近まで下落。10/20は米金利が上昇するも台湾ドル買いが継続し、一時27.856まで下落したが、輸入業者や国内投資家のドル買いから下値は堅く、27.88付近で推移していたが、その後はじり高の展開に。10/21は台湾加権指数が17,000ポイント台に上昇する中、ドル台湾ドルも27.87付近まで下落したが、海外への投資資金が増え、27.91付近まで戻された。10/22は輸出企業のドル売りで引け前に下落する場面も見られたが、狭いレンジで推移した。最終的には先週比0.4%ドル安台湾ドル高の27.902で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は153.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初10/18は114.21でオープン後、日経平均の反落や中国経済の先行き不透明感から下落するも114円を割れなかったことや、米長期金利の急上昇を受けて114円台半ばまで反発。10/19は米長期金利の上昇が一服したこともあり、113円台後半まで下落したが、早期利上げ観測が高まり米金利が上昇に転じると再び114円台半ばまで持ち直した。10/20は前日の米金利上昇からのドル高の流れが継続し、一時114.69と約4年ぶりの円安水準まで上昇したが、ドル買い一巡後は、米長期金利が低下し、114円台前半まで下落。10/21は米フィラデルフィア連銀景況指数が予想を下回ったことから、113円台半ばまで下落したが、米金利が上昇に転じ、米10年債の利回りが1.7%台に乗せる中、ドル円は114円台に戻した。10/22はパウエルFRB議長が量的緩和の縮小を支持したものの、早期利上げを否定したこともあり、米長期金利が急低下したことを受け、ドル円も一時113.42まで下落。最終的に先週比0.7%ドル安円高の113.51で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.700-28.050
先週は米金利の上昇もあり底堅く推移したが、FOMCを来週に控えており、様子見の動きも想定されるため、今週は月末の輸出企業によるドル売りから台湾ドル高を見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：113.00-114.30
先週末にパウエルFRB議長が早期利上げに対しては慎重な姿勢を示したことから、米長期金利の低下と共にドル円も下落した。来週にFOMCを控えており、今週は一旦様子見となると見込まれ、月末のフローによる値動きとなるであろう。

今週の予定

10/25 (MON)	台湾9月鉱工業生産、米9月シカゴ連銀全米活動指数
10/26 (TUE)	米10月消費者信頼感指数、米9月新築住宅販売件数
10/27 (WED)	米9月耐久財受注
10/28 (THU)	ECB政策理事会、米Q3GDP速報値、米Q3PCEコアデフレーター
10/29 (FRI)	台湾Q3GDP速報値、米10月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。